

海外安全対策情報(令和2年10月～12月)

パプアニューギニア

1. 社会・治安情勢

(1) パプアニューギニア(以下PNG)では失業者や生活困窮者が多く、これら困窮者や失業した若者グループによる金品強奪を目的とした犯罪が頻発している。2019年(最新)のPNG警察犯罪統計によると、犯罪件数は全国的に上昇している。PNGでは多くの場合、強盗(一般に「ラスカル」と呼ばれる)に蛮刀、ナイフ、銃や手製銃等を使用するため、万が一、強盗等に遭遇したり、事件に巻き込まれたりした場合には、身を守るため、金品などの所持品を奪われても抵抗や反撃をすべきではない。また、武装したラスカルによるカージャック被害が昼夜、場所を問わず多発しているため注意が必要である。また、婦女暴行目的の誘拐や暴行後に殺害されるケースも多く、社会に深刻な不安を与えている。PNG国家警察の統計上の件数だけでも、2019年は国内で898件の婦女暴行事件が起きており、その内、220件がポートモレスビー市内で発生している。

(2) ハイランド地方は、部族間闘争が定期的が発生しており、首都圏における部族間の争いの原因にもなっている。現在までに外国人を巻き込んだ事件は確認されていないものの多数の死者が発生しており、収束の見通しは立っていないことから引き続き同地域へ渡航する際は注意を要する。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 当地UNSSS(国連安全警備局)、民間警備会社の情報(2020年10月～12月)及び当地首都圏警察長官によれば、首都ポートモレスビー市内で発生した総犯罪件数は、216件であった。特に年末にかけての犯罪増加は顕著で有り、12月の犯罪発生件数は前年比で約2倍となった。

現地治安当局によれば傾向として最も多いのは性犯罪であり、次いでカージャック、強盗と凶悪犯罪が多数を占める。特に同市ゲレフ地区等で強盗やカージャックが多発している。

また、ゲレフ、空港周辺のエリマ、海岸線沿いのコキ、コネドブ各地区周辺では部族間争いに起因する乱闘が度々発生しており、主にハイランダーと呼ばれる山岳地出身者らが現地の部族間対立を首都圏に持ち込み事件を起こしている。

●強盗・盗難63件、カージャック55件、乱闘事件35件、殺人12件、傷害7件、薬物所持4件、警官偽証2件、違法銃所持2件、誘拐1件、その他35件

(2) 最近のポートモレスビー市内における注意を要する事案

ア 市内で頻発しているカージャック等の強盗は、特に朝夕のラッシュアワーに集中しており、信号待ちの交差点や渋滞中の環状交差点において襲われるケースが多い。鍵のかけ忘れにより車内に侵入されることもあることから運転中、窓を閉めて施錠するとともに外出する時間帯や地域についても注意する。

イ 治安当局によれば、性犯罪はセトルメントと呼ばれる貧困地域を中心に家庭内暴力を含め多数発生し、年間約 900 件が報告されており、治安当局による統計では最も多い犯罪となっている。徒歩での移動や公共交通機関の利用は昼夜を問わず危険である。

(3) 邦人被害事案

12月18日（金）19時50分頃、東ニューブリテン州の郊外で、住居への押入り強盗に遭い、拘束された上で金品を強奪されたという邦人被害が発生している。幸い邦人に怪我等はなかったが、当国における強盗被害は日々の報道でもある通り、悲惨な殺傷被害に至るケースが少なく無い。特に本年はコロナ禍の影響もあり、犯罪の増加が例年以上に懸念されている。

事件に遭遇した際には無抵抗に徹し、自らの安全を最優先に考えて行動する必要がある。

3. 誘拐事件発生状況

2020年10月～12月には外国人を標的とした誘拐事件は報道されなかったが、PNG人の誘拐事件は発生しており、都市部への人口流入及び貧富差の拡大等の状況に鑑みれば、引き続き、誘拐事件に対しても十分な警戒が必要である。特にPNGでは、強姦や金銭目的の誘拐事件が多発しているため、単独行動や徒歩での移動を避ける等の十分な対策が必要である。

以上